

委員会活動

総務
企画
委員会

つくばエクスプレス沿線地域・桜川市中央公民館

T Xの沿線整備状況などを調査

初めに、つくばエクスプレス(TX)の沿線整備の状況について、みらい平駅周辺の伊奈・谷和原丘陵部地区、続いて萱丸地区、上河原崎・中西地区、最後に万博記念公園駅周辺の鳥名・福田坪地区を視察しました。委員から、課題となっている駐車場や道路の整備状況、また、宅地の整備・販売状況や商業施設の進出状況などまちづくりに関し、活発な質疑がありました。

次に、4月に、販売部門と建設部門を一体化するなど、現地におけるまちづくり体制を強化して設置された「つくばまちづくりセンター」において、取り組み状況や沿線整備の全体概要について説明を受け、県外からの住宅入居者の割合の状況や、市や都市再生機構との整合などについて質疑がありました。

最後に、桜川市中央公民館において、真壁地区における400年前の江戸時代の「町割り」や蔵、門などの歴史的建造物の保存、活用による魅力あるまちづくりに向けた取り組みについて、桜川市から説明を受け、その後街並みを視察しました。市では、県と連携しながら取り組みを進め、現在、登録文化財が100件を超え、住民の活動も大変活発になり、4年目を迎えた雛祭りには8万人を超える来訪者があったとのことであり、住民や団体等との連携の状況や登録文化財指定にあたっての課題や苦勞などについて、活発な意見交換を行いました。



T Xみらい平駅で沿線の整備状況の説明を受ける

(株)関商店茨城工場・筑西市シビックコア地区

新型固形燃料R P Fの製造工程などを調査

環境
商工
委員会



新型固形燃料RPFの説明を受ける

古河市の株式会社関商店茨城工場において、新型固形燃料RPFについて説明を受け、製造工程を視察しました。RPFとは、主に産業系廃棄物のうち古紙類及び廃プラスチック類を原料とした高品位の固形燃料で、石炭やコークスなどの化石燃料の代替として多くの産業に利用されます。この工場では搬入された古紙、廃プラスチック等の99%以上をRPFとして燃料化しており、再資源化による地球環境の保全・資源循環型社会の構築例として注目されています。委員からは、製造技術の開発経緯、他の処分方法とのコスト比較、今後の将来展望等について活発な質疑がありました。

次に、官公庁施設を核に、市の施設や民間施設と一体的にまちづくりを進めている筑西市シビックコア地区を訪れました。この地区はJR下館駅の北側500mに位置し、古くから形成されてきた商店街にあり、生活、文化、交流の中心ゾーンとして地域の顔となるような新しい魅力とにぎわいに溢れた地域づくりを行っています。地区内の地域交流施設「アルテリオ」において事業主体の筑西市から説明を受け、まつりなどイベントによる経済効果、シビックコアの今後の取り組み、中心市街地の活性化などについて意見交換を行いました。

保健
福祉
委員会

茨城キリスト教大学附属聖児幼稚園・県立健康プラザ

総合施設モデル事業の実施園などを調査

茨城キリスト教大学附属聖児幼稚園日立園を訪れ、当園が実施している総合施設モデル事業の概要について説明を受けました。総合施設モデル事業は、就学前の教育と保育を一体として捉えた教育・保育活動をモデル的に実施するもので、平成17年度から国の委託を受けて取り組んでいます。

委員からは、子どもを預けている保護者からの反応について質問がありました。園は、当事業の利点を生かした預かり体制や、職員一人ひとりが丁寧に子どもと接していることなどを例に挙げ、「安心感を持って子どもを預けられる」と、保護者から好評を得ていると答えました。そのほか、教育と福祉を区別しない幼児教育のあり方などについて質問がありました。

次に、県立健康プラザを訪れ、県の介護予防施策についての説明のほか、いばらきヘルスロードの普及やシルバーリハビリ体操指導士の養成、食生活改善推進員の研修などといった、当プラザでの取り組みについて説明を受けました。その後、各種講習会や研修を行う専用室として今年1月に設けられた、シルバーリハビリ体操室や健康づくり研修室を視察し、いきいきヘルス体操の実技などを見学しました。



聖児幼稚園で総合施設モデル事業の説明を受ける